

2019年ユーロバイク展報告

(一財)自転車産業振興協会(自振協)は、日本の自転車関連産業の貿易促進のため、日本企業の国際自転車展示会への出展支援を行っている。2019年9月上旬に開催された欧州最大の自転車展示会ユーロバイク展には自振協取りまとめによる共同出展ブースを設け、日本企業10社の出展を支援した。同展の概要を報告する。

1. 展示会概要

第28回目となる自転車展示会、2019年ユーロバイク展(EUROBIKE2019)は、ドイツの南端、フリードリッヒスハーフェン見本市会場にて、9月4日(水)~7日(土)の4日間、開催された。本年は昨年不実施の一般公開日が再び設けられた。前年に1割減と落ち込んだビジネス来場者数は、前年比6.6%増の39,834人となった。一般来場者数は一昨年の2017年実績と比べ2.4%減の21,240人であった。

出展社数は前年同様1,400社であり、そのうちの150社が新規参加であった。国別の出展者でみると、欧州からは地元ドイツが最大の367社、次いでイタリア141社、オランダ59社、フランス56社、英国39社、オーストリア29社等である。アジアからは台湾254社、中国161社、日本22社等となった。米国からは69社であった。



2019年展示会場の様子(左:ホールB2、右:ホールA4)

主催: メッセ・フリードリッヒスハーフェン有限会社

開催地: ドイツ・フリードリッヒスハーフェン見本市会場

会期: 2019年9月4日(水)~7日(土) ※ビジネスデー3日間、一般公開1日間

展示会場及び面積: 13ホール、97,000㎡ ※A3仮設、屋外DEMOエリアは除く

入場者数: ビジネス来場者 96カ国39,834人(昨年96カ国37,379人)

一般来場者 21,240人(2017年22,160人)

出展社数： 60カ国 1,400社（昨年 52カ国 1,400社）

2. 過熱する市場競争

本年の展示会も電動アシスト自転車 (EPAC) 等とその関連部品であふれた。同展オフィシャルサイトによると、2019年の Pedelecs (※EPAC の別称) 出展者数は前年比 63% 増の 262 社と大幅に増加した。一方、Pedelecs よりも補助速度やモータ出力の高い S-Pedelecs はほぼ横ばいの 78 社であった。

図表 1： Pedelecs 等の出展者数推移 (単位：社)

出展車種	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
E-bikes	30	47	76	110	101	156	158	176	195	-	-		
Pedelecs	15	23	30	52	55	88	82	83	84	109	132	161	262
S-Pedelecs										23	133	76	78

※2016年より「Pedelecs」と「S-Pedelecs」に分類変更

前年同様、ホール A1 は Pedelecs、S-Pedelecs に特化したホールとなり、Brose、コンチネンタル、BAFANG 等の電動ドライブユニットが揃っていた。更に今年は大手自動車部品メーカーZF 傘下の SACHS が Pedelecs 用の電動ドライブユニットを本格的に出展し、同社ブースは活気に溢れていた。現在、市場をリードするボッシュ (BOSCH) の強力なライバルとなるのか大変注目される。他ホールにおいても、BOSCH をはじめシマノ (STEPS)、TranzX 等、電動ユニット関連の出展者が多く見られ、欧州市場における電動ユニットを巡る競争はますます過熱している。



SACHS ブースの様子

Pedelecs の車種別では、今年も各ブースで新商品の E-MTB が数多く見られ、引き続き E-MTB が主役である。E-MTB はフレーム下パイプ内部にバッテリーを収納したモデルがますます増え、これが標準スタイルになりつつある。更にはシティ/トレッキング車タイプにもバッテリー内蔵型が広がっている。

E-MTB に次ぐ新たな車種として、電動ロードバイクが今年もいくつかのブースで散見されたが、E-MTB ほどの急速な広がりはまだ見せていない。ロードバイクが本来持つ軽快さを損

なわないよう、小型・軽量化された E-ロードバイク用の電動ユニットが出現するかもしれない。

また、昨年より A1 ホールの一角に設けられた「Cargo Area」は規模を広げ、E-カーゴバイク (E-Cargo Bikes) の出展者が多く集まっていた。排ガス規制強化による電動車両 (EV) への移行という大きな流れの中で、配達等の商業利用のみならず、環境にやさしい移動手段としてますます注目が高まっている。更なる普及のためには、個人でも取り回しやすいように小型・軽量化が今後の課題の一つだと思われる。



E-MTB (左 ; ビアンキ、右 ; ハスクバーナ/PEXCO)



E-カーゴバイク

3. 自振協 (JBPI) 共同出展ブース

本年 17 回目の出展となる自振協 (JBPI) ブースは、展示ホールを A3 から A4 に移し、小間面積は昨年よりやや小さい 99 m²であった。今回は下記表のとおり合計 10 社の日本企業が共同出展した。ホール A4 は部品・付属品 (P&A) 関係の出展者が多く集まる場所であった。

JBPI ブースではペダル、ギヤクランク、ハンドルバー、シートピラー、ブレーキ、カーボンフレーム等の部品類、心拍計測機器やブラケットフード等の付属品等が出展された。また、本年は完成車の出展者が 5 社集まり、カーボンフレームの高級スポーツ車、小径車、折りたたみ車、EPAC、E-MTB、ツーリング車、幼児車等、様々な車種が展示された。当ブースは日本の高品質な自転車関連製品が集まる「JAPAN」ブースとして来場者の注目を集め、各社小間で

は商談等も活発に行われた。



JBPI ブースの様子

図表 2 : 2019 年ユーロバイク展共同出展企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所 U R L	T E L	主な出品物
(株)三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 所沢市菟谷 1738 https://www.mkspedal.com	04-2948-1261	ペダル
(株)ヨシガイ DIA-COMPE	〒571-0008 門真市東江端町 7-25 http://www.diacompe.co.jp	072-884-8020	ヘッドセット、 ブレーキ等
(株)日東 NITTO	〒334-0013 川口市南鳩ヶ谷 3-23-7 http://nitto-tokyo.sakura.ne.jp/index-E.html	048-286-7771	ハンドルバー シートピラー等
(株)ASK TRADING BOMA	〒341-0018 三郷市早稲田 4-10-2 http://www.boma.jp	048-951-5820	トラックレーサー カーボンフレーム等
(株)プロキダイ AIRFIT	〒619-0289 京都府相楽郡精華町光台 3-5 NICT OpenLab 1L https://www.airfit.cc	0774-66-5224	心拍計測機器
アウトートップ(株) SHAKES	〒106-0031 東京都港区西麻布 3-3-3 http://www.shakes.tokyo	03-6459-2828	ブラケットフード グリップ
(有)米澤自転車店 Love Bike	〒680-0864 鳥取市吉成 637 http://bicycle-yonezawa.net	0857-22-3262	幼児車
(有)アイヴ エモーション Tyrell	〒769-2323 さぬき市寒川町神前 1430-1 http://www.tyrellbike.com	0879-49-1613	折りたたみ車 ロードバイク
(株)丸石サイクル Maruishi	〒342-0043 吉川市大字小松川 684-1 http://www.maruishi-cycle.com	048-984-1406	電動アシスト車 ツーリング車
(株)イルカ iruka	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 3-18-6-211 http://www.iruka.tokyo		折りたたみ車 トレーラー等

4. 撤退が続く完成車メーカー

欧州最大手のアクセルグループが7月に独語圏(ドイツ、オーストリア及びスイス)市場向け内覧会をドイツ・マインツで4日間開催し、今年のEUROBIKE参加を取り止めた。その結果、同社傘下のハイバイク、ビノーラ、コガ、ゴースト、ラピエール等のブースが会場から一気に姿を消した。その他、スイスのスコット、イタリアのコルナゴ、スペインのBHバイク、ドイツのベルガモント等の有カスポーツ車ブランドも出展を取り止め、今年も完成車メーカーの撤退が続いた。なお、撤退が噂されたメリダ/センチュリオンは現地代理店が規模を縮小し出展した。

完成車メーカーの撤退が続く一方、今年はイタリアのビアンキが復活した。更にドイツの共同購買団体ZEGも3年ぶりに戻ってきたが、傘下ブランド(ケトラー、ブルズ、ヘラクレス及びフライヤー)の各ブースはA・Bホールに分散していた。同団体は毎年夏に地元のケルン見本市会場で会員向け内覧会を開催しており、9月の本展に参加するメリットが見出せないとして一度撤退したことがあるため、来年以降も参加を続けるのか注視したい。



ZEGブランド(左;フライヤー、右;ケトラー)

展示会全体で見ると前年同様の出展規模となり、昨年は空き地が目立った中庭の屋外エリアにはBMXジャンプ台も復活し、一般公開日には多くの来場者で賑わいを見せた。また、昨年は空間が広がった東側通路エリアは、新たな試みとして「START-UP AREA」に生まれ変わり、簡易ブースで新興企業が参加しやすい場所を提供していた。

また、毎年7月初旬にオーストリア・南チロル地方でメディア向けに開催している新商品試乗会「EUROBIKE Media Days」に加え、今年は7月上旬にフランクフルトにて「Urban Mobility Media Days」が開催された。前者はスポーツ車がメインで21社23ブランドが出展し、15カ国140名のメディア関係者が集った。後者はシティ/トレッキング車や運搬車を中心に32社42ブランドが出展し、100名が参加した。

これらの新たな試みからも、EUROBIKEの付加価値を高めようとする主催者の努力の跡が伺えた。



活気が戻ったエリア（左：中庭屋外、右：Start-Up Area）

5. 来年の日程

来年の日程は 2020 年 9 月 2 日～5 日の 4 日間であることが本年開催前に早くも発表された。2018 年 7 月開催が不評で従来の会期に戻したことも踏まえ、早めに決定したと思われる。

ドイツ二輪産業協会 (ZIV) が展示会場で公表した資料によると、独市場の 2019 年上半期の電動自転車販売台数は 92 万台に達した。既に 2018 年の年間販売台数 98 万台に迫る勢いである。現在、欧州市場は E-Bike ブームに乗り、本展の電動自転車関連の出展者の勢いはしばらく続くと思われる。将来的に EUROBIKE は電動自転車展へ変貌する可能性も考えられる。

ここ数年、大手完成車メーカーが次々と姿を消し、各社の独自の内覧会や受注会に移行する中、本展の会場には初見の新興ブランドが増えつつある。このような状況は昨年を終焉した米国のインターバイク展がかつて進んだ道である。ユーロバイク展が同じ道をたどる懸念もあり、今後も各社の出展状況に注意したい。

以 上

※写真はすべて筆者撮影（同展取材登録済）